

長崎から始める /



長崎大学リレー講座 2022

プラネタリーヘルス 実現への挑戦 ~SDGsの一步先へ~



長崎大学は2020年に
「プラネタリーヘルス(地球の健康)に貢献する大学」
を目指すことを掲げました。

地球環境の持続と人間社会の持続的開発。両立の難しいこの二つの関係を、
社会、経済、環境の事象をパズルのように組み合わせ、互いに発展できる道
を探ることが「プラネタリーヘルス」の考え方です。広い視野で世界を捉え、
「プラネタリーヘルス」の実現について学んでいきます。

高校生
長崎大学生
西遊サポーター

無料

一般(6回受講料)
3,000円

会場 長崎大学中部講堂 / オンライン同時配信

講座終了後、特設 Web サイトにてオンデマンド配信

問い合わせ・申し込みは Web から 特設 Web サイト <https://nu-relay.jp>

お電話によるお問い合わせ: 長崎大学広報戦略本部 **095-819-2007** (平日 10:00~17:00)

主催 長崎大学

協賛 十八親和銀行 協和発電ホールディングス株式会社

共催 長崎新聞社

後援 長崎県、長崎市、長崎経済同友会、長崎県経営者協会、長崎商工会議所
(一社)長崎青年会議所、長崎都市経営戦略推進会議、長崎経済研究所



18:30-20:00 各回共通

事前申込制

申込締切日 **2022年9月27日(火)**

※定員に達し次第受付を終了する場合がございます。

講座内容の詳細は裏面をご覧ください

第 1 回

2022 9/29 木

地球に優しい人間と 人間に優しい地球



長崎大学 学長特別補佐
(プラネタリーヘルス担当)

渡辺 知保

プラネタリーヘルスとは 2015年に有名な学術雑誌の論文で提唱された考え方で、相互に依存する「地球の健康」と「人間・社会の健康」とを指している。本講座のキーとなるこの考え方を解説し、プラネタリーヘルスの実現のために何が必要か、SDGsとの違いはどこかなど、みなさんと共に考えたい。

第 2 回

2022 10/17 月

世紀の感染症 パンデミックで学んだこと



長崎大学病院
呼吸器内科 講師

山本 和子

感染症は人類の歴史に大きな影響を及ぼしてきた。人が免疫をもたない病原体は爆発的な感染症を流行させ、世界を揺るがしてきた。本講演では、地球規模のパンデミックを起こした新型コロナウイルス感染症を例えに、社会生活で感染症とどのように向き合っていくか、未来のプラネタリーヘルスを考えたい。

第 3 回

2022 11/9 水

長崎経済のSDGsと経済



十八親和銀行 地域振興部
(出向先 長崎県 企画部 政策企画課)

井上 巧

持続可能な企業活動の実現のために SDGsが果たす役割や、もたらす効果について解説。経済活動は、地球に害を与えるのではなく、地球保全のため私たちの社会活動の調整役を担うことを示す。また、長崎県が抱える課題解決のために、SDGsを通した長崎県や金融機関の取り組みについても紹介する。

ESG 投資は地球を救えるか？



長崎大学
経済学部長

深浦 厚之

誰一人取り残さないことを目指すSDGs。ESG投資がこの目標に貢献できるためには、SDGsは魅力ある投資機会・収益機会でなければならない。利益の追求と地球の保全。一見、矛盾するこの二つをESG投資は両立させられるだろうか、“新しい資本主義”とどのように関わることなのか、等を考える。

第 4 回

2022 11/29 火

核兵器とプラネタリーヘルス



長崎大学
多文化社会学部 教授

西田 充

ウクライナへの侵略に際して、ロシアが核兵器の使用をちらつかせる核恫喝を行ったことで、核兵器に内在する危険性が白日の下に晒された。この地球にはまだ大量の核兵器が残されている。核兵器がプラネタリーヘルス(地球の健康)にどのような影響を与えるのか、被爆地長崎から論じる。

第 5 回

2022 12/14 水

海洋生態系の脅威となる プラスチックごみ



長崎大学大学院
水産・環境科学総合研究科 准教授

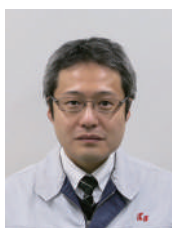
金 禧珍

長崎の海域にも多く存在するマイクロ・ナノプラスチック。肉眼では観察できないほど微細な粒子が海の生物や生態系にどのような影響を与えているのか、そして私たちの生活にどのように関わることについて解説する。海の豊かさを守るために私達一人一人ができることについて、みなさんと共に考えたい。

第 6 回

2022 12/22 木

世界の水環境と海水淡水化技術



協和機電工業株式会社 事業開発部
水処理プロジェクトグループ

上山 哲郎

地球上で利用可能な淡水は全体の1%程度であり、安全な飲料水や手洗い用水を満足に確保できない地域がある。日本では数年に一度、渇水がニュースとなる程度であるが、特に離島では海水淡水化技術による飲料水の確保が必要とされている。SDGsに貢献することが可能な海水淡水化技術の導入事例を紹介する。

飲み水の危機

~長崎から世界に技術を届ける~



長崎大学大学院
工学研究科 准教授

藤岡 貴浩

世界では人口増加、産業発展、気候変動により水不足が深刻化しており、水質の悪い河川水や下水を浄化して飲まざるを得ない国が増えている。全ての人々が安全で安価な飲料水にアクセスする(SDGs 目標6.1)のために長崎から何ができるのか。グローバル展開を大前提とした開発活動を紹介する。